2024 年度
第 31 号

体育市民連帯
ニュースレター

1 オリンピック メダルを超えた 連帯と和合の 場として

2 オリンピックの 光と影

3 男女平等 オリンピック

4 XY 染色体女性五輪出場に ハリー・ポッターの ジョアン・ローリング 嫌悪発言

5 シン・ユビンはなぜ 高校を放棄したのか・・・ 学生選手の 学習権

6 柔道だけが上手だった 日本はどうやって オリンピック 1 位になったのか

7 寄りかかるなと言って いたのに金もう 10 個 「体育会、無能だったり、 面皮だったり」

8 22 歳なのに・・・ アン・セヨン突然 代表引退宣言 その理由は？

9 ユスピの疾走は 最下位で ゴールした後に 始まった

10 五輪選手 16 人のうち 12 人が女性 北朝鮮なぜ女性パワーが 注目されるのか？

大韓民国スポーツの

根本的変化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？

ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号　TEL 02-2279-8999

체육시민연대

体育市民連帯 ニュースレター 2024 年 第 31 号 2024.8.6

2024 パリオリンピック特集

01 大田日報 2024.08.01

オリンピック、メダルを超えた連帯と和合の場として

2024 年パリ五輪は、いろいろな面で特別な意味を持つ。 100 年ぶりに再びパリで開かれる今回の五輪は、過去と現在、未来をつなぐ架け橋の役割をする。 これは単なるスポーツ競技の延長線ではなく、全世界が一緒に集まって平和と連帯の価値を再確認する特別な機会だ。 オリンピック憲章の第 6 条は「オリンピック理念の目標は人間の尊厳性保存を追求する平和な社会建設を図るためにスポーツを通じて調和のとれた人類発展に寄与することだ」と明示している。

オリンピック精神はただ勝利やメダルの数に限らない。 クーベルタンは「五輪で最も重要なのは勝利ではなく参加だ。 人生で最も重要なことは成功ではなく努力することだ」と強調した。 これはオリンピックが単なる競争を越え、スポーツと人権、異なる文化と背景を持つ人々の尊重などの価値を追求する祭りであることを意味する。 自国の勝利とメダルに対する執着は、このような五輪精神を歪曲する。 勝利だけに執着する態度は、スポーツの本質を忘れさせ、国家間の過度な競争、選手個人に圧迫を加える問題を招く。 このような態度は、五輪が目指す世界平和と連帯の精神を傷つけ、試合結果だけを重視するようになる勝利至上主義のスポーツ文化を助長する。

一方、パリ五輪は持続可能な五輪を目指し、特にカーボンニュートラルの実践に重点を置いている。 炭素排出と環境汚染を減らすための多様な努力で多くの不便が予想されるが、喜んで実践する計画を前面に出している。 近代オリンピック開催当時、大規模建設を通じて都市を改造する機会にしてきた都市とは全く違う。 このような努力は気候変動に対する世界的対応の重要性を知らせ、スポーツを通じた持続可能な発展モデルを提示するのに寄与するだろう。 米国のコラムニストのウォレス· ウェルズは「2050 居住不能地区」で地球温暖化が単純な「自然災害」を越えて「大量虐殺」と規定し、2050 年には地球で人が暮らしにくいと警告する。 パリ五輪を通じて、現在の人類の行動が未来世代にどのような影響を及ぼすかについて、深い省察のメッセージを伝えるだろう。

パリ五輪で我々はメダル以上の価値を発見できなければならない。 多様な背景を持つ選手たちが一緒に競技を繰り広げ、その過程で形成される相互尊重と和合は韓国社会に大きな教訓になる。 五輪は国家的自負心を越え、人類が一つにつながることができることを示す証拠だ。 スポーツを通じて私たちは互いに異なる理念と文化を理解し尊重し、人類共同の問題を探索し、平和な共存を実現することができる。 パリ五輪がメダルと順位を越え、人類が直面した挑戦に対する解決策を模索し、連帯と和合の重要性を再確認する機会になることを願う。 オリンピックの真の勝利は、まさにこのような価値を実践することにある。

オリンピック憲章第 1 章第 6 条第 1 項では「オリンピック大会の競技は国家間の競争ではなく、個人戦または団体戦を通じた選手間の競争だ」と明らかにする。 また、第 5 章第 57 条には全体的な国別順位を作

成しないことを強調する。 しかし、マスコミは国別順位を連日報道するだろう。 もしかしたら2024年パリ五輪で大韓民国は歴代最低の順位を記録するかも知れない。 韓国は根拠の足りない金メダル中心の国別順位にこだわるのではなく、五輪の意味を追求し、先進化したスポーツ文化の定着のための転換点にならなければならない。 韓国の選手がメダルを獲得した試合だけを繰り返す中継放送も自制しなければならない。 パリオリンピックが指向する性平等、親環境、社会統合など普遍価値を強調する「先導国家型オリンピック」の価値を共有できることを希望する。

特別寄稿　イ·ジュウク忠南大学校教授体育市民連帯執行委員

出典：https://www.daejonilbo.com/news/articleView.html?idxno=2146865

02　韓国日報　2024.08.03

オリンピックの光と影

第33回パリ五輪が真っ最中だ。 異郷万里で行われる五輪競技をリアルタイムで接することができるのは、テレビ中継のおかげだ。 テレビを通じた最初のスポーツ中継は1936年ベルリン五輪だったが、中継権料の概念が初めてできたのは1960年ローマ大会だった。 この時からスポーツ中継が経済領域に入った。 1968年メキシコ大会は国際オリンピック委員会（IOC）が本格的に中継権料に関心を持った大会だった。 その後、五輪中継権料の収入は幾何学的に増加した。 しかし、大会の赤字は相変わらずだった。 最初の黒字オリンピックは1984年のLAオリンピックだった。 大会組織委員長だった「ピーター·ウィーバーロス（PeterUeberroth)」は放送中継の重要性を強調した。 そして、これを通じて多くの企業後援を誘致した。 しかし、いざ選手たちのための宿泊と競技場施設にはあまり関心がなかった。 しっぽが胴体を揺らすような形をしていた。

オリンピックは一国の文化認識を改善することもある。 1988ソウル五輪が代表的な例だ。 オリンピック以前、人々は満員のバスの中でもタバコを吸った。 今は消えた「公衆道徳」という標語が都心のあちこちに貼られていた。 結果的にソウルオリンピックは国民の文化認識を改善した。 しかし、その裏には強要された国民の犠牲もあった。 聖火リレーの近くの貧民街、バラック村などを「美観上の理由」で撤去した。 そこに住んでいた数十万人の住民は街頭に追い出された。 オリンピックという「伝家の宝刀」は弱者の前ではさらに残酷だった。

今回のパリ五輪のテーマは「炭素低減」と「エコ」だ。 地球村の観点から非常に意味のある話題だ。 組織委は実践案として選手村の宿舎とシャトルバスにエアコンを設置しなかった。 運動選手にとって重要な献立も菜食中心に構成された。

各国の選手団には非常事態となった。 このような組織委の措置が選手のコンディションを台無しにする恐れがあるからだ。 富国はエアコンを空輸し、食事も別に用意した。 大会の趣旨が色あせた決定だった。 逆に、大会の名分を維持する不便さは、貧しい国の選手たちの役割になった。 彼らは競技場では相手選手と、競技場の外では大会の趣旨と戦う格好になった。

パリには市内を貫く「セーヌ川(La Seine)」がある。 そしてフランス東部アルプスの山裾には「千水(hard water·ギョンス)」の代名詞であるエビアンがある。 このうち、どの水の価値がより大きいと断定

することはできない。 現れないからといって意味が小さくないためだ。 五輪には常に隠された影が共存する。 光と影の混在、それがオリンピックの本質だ。
チョ・ヨンジュン　スポーツコラミスト
出典：https://m.hankookilbo.com/News/Read/A2024080210000003865?did=kk

03　キム·シンヒョンギョン　2024.08.03
【ジェンダーサロン】男女平等オリンピック

ヨガを始めて10年余りになるが、熱心にしたのは約3年程度だった。 年も取って、新型コロナウイルス感染症の時、体を動かさなかったせいも重なり、首と肩が硬くなり、頭痛までひどくなった。 やっていた仕事ができなくなるのではないかと、急に怖くなった。 いくつかの病院を歩き回ると、頭を使う研究者として引き続き生きていくためには、体からよく使わなければならないという結論が下された。 その時から水泳も習った。 水に対する恐怖があると思ったが、研究者として生きられないという恐怖がもっと大きかったのか、思ったより簡単に克服した。 水泳がある程度できるようになってからは、やってみたいスポーツがもっと増えた。 今年クロスフィットを始めてからは筋肉量を増やす楽しみがある。 パリオリンピックは「生活運動家」になってから初めて迎えたオリンピックだ。 実際、五輪のようなメガスポーツイベントにはあまり関心がなかった。 若くて健康な男性肉体の能力を基準に順位を付けるのも良くなかったし、そこに「クッポン（訳注：国家とヒロポンの合成語。麻薬中毒者のように妄信的で過激に愛国主義的行動をおこなう人のこと)」情緒を投射して泣き笑い集団主義的一体感を味わうのも気に入らなかった。 ところが、生活運動家になってから見るようになったオリンピック中継放送は、全く違う快感を与えた。 水泳が泳法の修行、筋肉の動き、速度の調和が本当にダイナミックな運動だということを水泳を学ぶ前には知らなかった。 アーチェリーと射撃選手の静かそうな顔が、実は心と筋肉を集中させた状態だということも、ずっと目に入ってきた。 この歳になって気づく、体と心の違いがないのが興味津々だ。

月経、妊娠、出産をする体と運動する体

むしろ幼い頃には体と心が一致した一日一日を過ごした。 ブランコ跳び、ゴムひも遊び、陣取り遊び、ムクゲの花が咲きました、我が家になぜ来たの、イカゲーム、鉄棒遊び…… 毎日外で友達と一緒に遊びながら感じた多彩な心の状態、焦り、競争心、喜び、幸福感、満足感が生々しい。
男女を問わず一緒に遊んでいた日常が幕を閉じるようになったのは、女の子たちの胸が熱くなって月経が始まった直後だった。 小学校6年生の時、担任の先生がある日、男の子たちを運動場に送り出した後、ドアを閉めてカーテンを開けた。 女の子だけが残ったその教室で、私たちは子供を持つことができる体になったという事実と、月経帯を人目につかないようにきれいに処理する方法を学んだ。 その間、男の子たちはグラウンドでボール蹴りをしていた。 だから、2次性徴の頃に女の子たちが自分の体に対して持つようになるイメージは、気をつけて扱わないと取り返しのつかない問題が発生する悩みの種だということだった。 逆に、男の子たちはできるだけ怖がらずに体を使うことができなければならなかった。 運動が得意な男の子と運動には興味のないつつましい女の子。 そうして私たちはジェンダー秩序の中に入った。

このような社会で「月経をする体」そして「妊娠と出産をする体」は「運動する体」とは見なされない。 そのため、若い女子選手たちは月経周期による様々な身体的、感情的変化を表すことが難しい。 妊娠と出産をした女子選手たちも同じだ。 今年初めに韓国で翻訳·出版された「女にしてはよく走るね」は、米国を代表する長距離走選手だったローレン·フレッシュマン（Lauren Fleshman）の自伝的エッセイだ。 この本で著者は自分が活躍した 1990 年代と 2000 年代に米国の陸上女子選手たちが実力を維持するために男性たちと変わらないエストロゲン水準を維持するために最大限月経をしないことを「選択」した状況を実感できるように叙述する。 結局、摂食障害をもたらす厳しいダイエットを通じた無月経状態の維持は骨粗鬆症につながり、骨折で選手生活を終えるのが常だったということだ。 摂食障害、無月経、骨粗しょう症は現在も多くの女子選手が経験する 3 つの問題として知られている。

韓国でも 2018、2019 年頃、多様な大衆コンテンツで運動する女性たちが話題になった時、月経が言及されたりもした。 しかし、運動を妨害する障害物としての月経経験エピソード程度にとどまった。 月経が女性の体を恨む障害物である理由は、実際に月経が運動能力を大きく落とすからではない。 月経周期によるホルモン変化を激しく経験しなければならない女性の体が健康な状態で運動をし、その能力を最大化できる条件に対する考慮と研究がほとんどないためだ。 言い換えれば、21 世紀が 20 年以上経った今も、人類が研究し学ぶ価値のある「運動する体」の異常は、依然として月経などしない男性の体である。

運動する女たち、女性らしさから脱した存在として攻撃される

スポーツが理想的だと思う体が若くて健康で障害のない男性の体なので、運動する女性たちはしばしば「過度に男性的な」女性と見なされる。 このような認識は、女子選手に対する嫌悪や暴力、攻撃につながることもある。

米国は 1972 年、スポーツを含む学校教育で性差別を禁止した法人タイトル「ナイン（TitleIX)」が通過した後、法制度的補完を通じてこれを守っている国だ。 そのような米国で 1990 年代に最も多く発生した女子選手に対するいじめがまさに「レズビアン」という命名と攻撃だった。 女子アスリートは男子を必要としないレズビアンだろうという偏見に基づいた嫌悪攻撃だった。 1997 年にハーバード大学が発行した「ハーバード·ゲー·アンド·レズビアン·レビュー」は、「女子スポーツ広報者が女子競技でレズビアンのイメージを洗い流そうと努力している」とし、「スポーツで女性が立つ場所のために長い間苦労したレズビアン、そしてレズビアンと呼ばれることを恐れない異性愛者女性でなかったら、今日の女子選手の席はなかっただろう」と書いたことがある（シェリー·ボサルト著、野市内駅、「タイトルナイン」参照)。

性的少数者への差別が深刻な韓国では、このような状況が現れること自体が容易ではない。 高校時代、学校テニス部のエースだった私の友人は、女子学生たちの関心と男子コーチの「レズビアン」疑惑が全て負担になり、運動をやめてしまったが、後々まで後悔した。 その友人が「テニスが上手な女」である自分を誇らしく思うことができても、そのような決定を下すことはなかっただろう。 2000 年代以降に明らかになったスポーツ界の人権侵害事件と 2019 年以降のスポーツ界の MeToo 暴露事件の中では、加害者が被害者をレズビアンやトランスジェンダーと名指しし、暴力を正当化するケースが相当数あった。 2021 年安山選手に対する観衆暴力事件もまた国家代表女子選手の個人的言動とヘアスタイルを「正しくない女子=フェミニスト」という枠組み内に閉じ込め、これを罰する目的で行われた嫌悪攻撃だ。 これは、女子アスリートが彼女らの意図とは関係なく運動をするという理由だけで、ジェンダー二元規範（男性はどのように行動し、どのような服装と態度を備えるべきか、女性はどのように行動し、どのような服装と態度を備える

べきかについての二元化された日常的規範を意味する）を外れた存在だと考え、ジェンダー二元規範を再び刻印させようとする目的で行われる暴力といえる。
特定の男性の体と男性性を最高とする競争的スポーツ界文化は、男子選手に対する性暴力が繰り広げられる土壌でもある。 2000年代のスポーツ界の人権侵害事件の報告書は、男性指導者と先輩が選手と後輩に行う暴力および性暴力を生々しく告発する。 位階秩序に順応しないとか、競争で遅れをとるという理由で正当化されるこのような暴力事件が、今も起こらないと断言することはできない。 積極的な関心と調査が必要な理由だ。
今回のパリオリンピックは、男女平等オリンピックとして話題を集めている。 内容は、男女選手が同数で出場し、母親選手のための保育園が初めて設置され、女子マラソンが祭りのフィナーレを飾るようになったということだ。 しかし、平等は同等に競技する権利で終わらない。 平等は、皆がその同等な機会を享受できるように、スポーツシステムを再構築することから始まる。 今回のオリンピックがそのような始まりになるか、残りの期間見守るのもパリオリンピックを楽しむ一つの方法だろう。
出典：https://v.daum.net/v/20240803043025953

04　京郷新聞　2024.08.01
XY染色体女性五輪出場にハリー･ポッターのジョアン･ローリング嫌悪発言

〈ハリー･ポッター〉シリーズの作家ジョアン･ローリングが性別論難がある台湾女性ボクシング選手リン･ウィッティングらを公開非難し論難になっている。 台湾の民心が沸き立つ中、台湾政府側はローリング発言の問題点を指摘した。
1日（現地時間)、台湾の自由時報と中央通信社（CNA）の報道によると、前日、台湾教育部体育署の鄭崇忠署長は「リン･ウィティング選手は国際オリンピック委員会（IOC）の規定によって台湾を代表して2024年パリ五輪に出場する」とし、「他の選手と同様に薬物やその他のテストを受けており、出場資格についての論争はありえない」と述べた。 それと共に「リンウィッティングに対する差別的発言は競技コンディションに故意的な影響を及ぼす恐れがある」と指摘した。
これに先立って先月29日、IOCはリンウィティングとアルジェリア国家代表のイマネ･カリフ選手に対して、パリ五輪に正常に出場できると発表した。 二人は昨年、インドで開かれた世界選手権大会に参加したが、決勝戦を控えて国際ボクシング協会（IBA）から失格処分を受けた。 通常、男性が持っているXY染色体があるという理由からだった。 IBAと違ってIOCが彼女らに試合出場資格を与えると、甲論乙駁が繰り広げられている。
ローリングは30日、エックス（旧ツイッター）に2人に関するガーディアンの記事を掲載し、「この狂ったことを終わらせるには何が必要でしょうか？ 女性ボクサーが人生を変えるほどの負傷をすること？ 女性ボクサーが死ぬこと？」と書き込んだ。 リン･ウィッティングとカリフの出場を公開反対し、嫌悪性の発言をしたのだ。 ローリングはトランスジェンダーなど性的少数者に対する嫌悪発言で論難を起こしてきた。

台湾のネチズンたちはローリングの発言に対して「リン·ウィッティングはトランスジェンダーではなく本来女性だ」、「ローリングがあまりにも生真面目で息苦しい思考をしている」と非難した。 医師である長官委は「ある人々は女性として生まれたが、男性に近い特性がある」として「生物学的世界の法則は常に小説より想像力が豊かだ。 オリンピック委員会のテストを通過した以上、疑問を提起してはならない」とローリングの発言を批判した。
しかし、性別論議の選手と対決することになった国では、異なる声が出ている。 カリフは1日（現地時間)、イタリアのアンジェラ·カリーニ選手と女子66キロ16強を戦うが、イタリアの政界はこれに憂慮を示した。 アンドレア·アボディ体育相は「スポーツの最高舞台であるオリンピックでは選手の安全と共に公正な競争に対する尊重が保障されなければならない」と指摘した。
出典：https://n.news.naver.com/article/032/0003312350?lfrom=kakao

05　中央日報　224.08.01
シン·ユビンはなぜ「高校を放棄」したのか···学生選手の学習権

「卓球神童」シン·ユビン(20)が2024パリオリンピックでメダルを獲得し、学生選手の学習権が再び関心を集めている。 シン選手が運動に専念するという理由で高校に進学する代わりに、実業チームに直行したためだ。

チョン·ユラが減らした出席認定日、「シン·ユビン事態」で再び増える
学生選手の学習権と運動権のうち、何を優先するかは以前から論争の対象になった。 1日、教育部によると、学生選手は昨年を基準に小·中·高学校運動部所属が4万6000人、個人や私設クラブ所属が2万4884人と集計された。
学生選手は一定期間以内には正規授業に参加せず、訓練に集中できる。 大会·訓練に参加したことを出席として認める「出席認定日数」制度があるためだ。
出席認定日数は2019年スポーツ革新委員会の勧告により学生選手たちの学習権を保護し授業欠損を防ぐために毎年縮小された。 2019年までは小·中·高校生選手ともに年間63日（授業日数3分の1）まで授業に参加してもいい。 だが、2022年には小学校5日、中学校12日、高校25日まで減った。
その背景にはいわゆる「朴槿恵政府国政壟断事件」の始発点となったチョン·ユラ氏の不正入学事件があった。 チョン氏は授業をほとんど受けなくても、乗馬体育特技者選考で梨花女子大学に合格した。
スポーツ界は出席認定日数の縮小がかえって学生選手たちを学校の外に追い込んでいると反発した。 訓練施設が遠く離れていたり、週末大会開催が難しい種目の選手たちは訓練·試合日程を消化しにくいという理由だ。 授業負担が少ない放送通信高校に進学した学生選手は、2019年115人から昨年514人へと毎年着実に増えた。
国家代表卓球選手のシン·ユビンとキム·ナヨンは中学校卒業後、高校に進学する代わりに実業チームに入団した。 当時、シン·ユビンの父親である水原市卓球協会のシン·スヒョン専務は「ユビンが訓練に邁進するにも時間が足りないうえに、学校で机に座っていること自体が大変だと言った」と話した。 2022年ウ

ィンブルドンテニス大会 14 歳の部男子シングルスで優勝したチョ･セヒョク選手も中学校卒業をあきらめて検定試験を選んだ。
尹錫悦政府は方向転換に乗り出した。 昨年 1 月、教育部と文化体育観光部は出席認定日数を初等学校 20 日、中等 35 日、高等 50 日に再び拡大した。 イ･ジュホ副総理兼教育部長官は昨年 9 月「高校生は 2025 年から出席認定日数を 63 日まで拡大することを検討している」とし、「学習権も重要だが、職業選択権と運動する権利も重要だ」と話した。

「プロ」の関門は狭い･･･「基礎学力･進路教育必須」
依然として学生選手の学習権と基礎学力を重視する声も少なくない。 学生選手のうち、プロになる割合は 10 人に 1 人にも及ばないというのが業界の説明だ。
運動を途中であきらめる学生も少なくない。 小･中･高運動部所属の学生選手のうち 1781 人が昨年運動をあきらめた。 理由としては進路変更(85.0%)が最も多く、疾病･負傷(6.8%)と個人事情(4.2%)の順だった。
大韓体育会によると、スポーツ選手の平均引退年齢は 23.6 歳で、引退後の無職比率も 41.9%に達する。
学生選手たちの「第 2 の人生」のためにも学習権が重要だという主張が出てくる理由だ。
「学生選手最低学力制」を巡っても体育界の反発が大きい。 今年 3 月から施行された同制度のため、教科成績が一定水準（学年平均の小 50%、中 40%、高 30%）を超えない学生選手は、来学期の大会に出場できない。 これに対してある体育界関係者は「出席認定日数を増やしながら、最低学力を越えろということは矛盾」と話した。
姜ジュンホソウル大学師範学部長（スポーツ経営学教授）は「教育は人間らしく成長するために知っておくべきことを学ぶ過程であるため、特定分野の職業人になることと関係のない基本的な権利として認識しなければならない」としながらも「スポーツを進路に決めた学生と一般的な大学に進学しようとする学生たちが同じ内容で勉強してこそ学習権が保障されるのかについては議論が必要だ」と話した。
出典：https://v.daum.net/v/20240801050056194

06　アジア経済　2024.07.31

柔道だけが上手だった国だったのに…
日本はどうやってオリンピック 1 位になったのか

「30 年前、アトランタ五輪を取材した時は、日本はこれからも柔道で金メダルを取れると思っていた。」
31 日、日本経済新聞（日経）は編集委員コラムで、日本が 2024 年パリ五輪金メダル順位 1 位国になったことについて、このように表現した。 柔道種目で金メダル 3 個が全てだった 30 年前と比べると、現在の成績は目を見張るほどの成果だ。 同日午後 3 時基準、日本は金メダル 7 個、銀メダル 2 個、銅メダル 4 個で最も多い金メダルを獲得した国になった。 メダル数では金メダル 4 個、銀メダル 11 個、銅メダル 11 個を獲得した米国が 26 個で 1 位だ。
結果はいつでも覆されるかもしれないが、序盤の興行で日本も浮き立っている雰囲気だ。 マスコミもこのような成長と関連して多様な分析を出している。 その中でも「部活動」と呼ばれるサークル活性化が影響

を及ぼしたという分析が主となっている。 学生時代、趣味で運動を始めるきっかけがあったため、五輪メダリストの輩出も早く行われたということだ。
日経は該当コラムで日本のオリンピック成績が良い理由と関連して「3 年前に 2020 東京オリンピックを誘致するために繰り広げた国家の支援、すなわち税金投入が最も大きな影響を及ぼした」と分析した。 当時、日本政府は 2020 東京オリンピック対策に「日本代表選手のメダル獲得のために選手強化活動を支援すると同時に、将来有望な選手を発掘· 育成する」とし、トレーニングセンターの拡充、スポーツ参加人口の拡大などを約束していた。

部活で始めてオリンピックで··· 生活体育の普遍化

学生たちの活発なサークル体育活動もオリンピック順位を引き上げるのに重要な役割を果たした。 日本では学校ごとに野球、サッカーなどは基本で、カヌー、体操など特化したスポーツサークルを持つところも多い。 日経は過去のコラムで「日本は学校でスポーツをするのが当然の国」とも言及した経緯がある。
読売新聞も「中学生の 70%、高校生の 50%はサークルの中で運動部に所属している」とし「オリンピック出場選手の中でもサークル活動経験者が多い。 サークルとオリンピックには深い関係がある」と分析した。
才能のある少数の学生だけを選んで選手として養成する韓国とは全く違う雰囲気だ。
日本のクラブ活動は 1886 年、東京大学の前身である帝国大学で学生たちが設立した「帝国大学運動会」が始まりだ。 日本では剣道など心身を鍛える武術や武道が人気のある運動種目だったが、開化とともに宣教師たちがスポーツを伝播し、学生たちが多様な運動を受け入れるようになった。
さらに、1912 年、日本で初めて五輪に出場した金栗四三も、クラブ活動でマラソンに入門したケースだ。 金栗は「日本マラソンの父」と呼ばれるが、出場当時、筑波大学の前身である東京高等師範学校地理学科に所属し、スポーツとは関係のない専攻生だった。 東京高等師範学校はすべての生徒を対象に水泳大会、長距離走大会を開くほどスポーツ参加機会の拡大に力を入れており、金栗はこれを通じて才能を発見しオリンピック出場機会を得ることになった。
日本では学生たちが部活動に取り組む姿勢も真剣だ。 いったん加入すれば、1 年中放課後や休日にも教師の指導の下で活動しなければならない。 教師の中で該当スポーツに関心がある人が担当コーチになる。
生徒らは週末の練習はもとより、夏休みの転地訓練や合宿も辞さない。 特に野球部の場合、教師が学生時代に野球部出身だったり選手を夢見た「在野のベテラン」だった事例をよく見ることができる。
このように日本では教師がクラブ活動に積極的に参加する構造であるため、時にはクラブ活動が「教師を搾取する行為」と見なされている。 これに対し、文部科学省がサークル担当を外部講師と委託する案を推進すると表明した状況だ。
にもかかわらず、サークル文化は現在も命脈をつないでいる。 オリンピックで注目を集めた新規種目は、新しいクラブ活動に発展する。 2020 年東京五輪で初めて採択されたスケートボードの場合、日本の選手が優秀な成績を出すと、学校が先を争って部活として採択した。 新潟県甲斐市国際高等学校は、従来のスノーボード部の強みを生かし、東京五輪以後、スケートボード部を新設した。
運が良ければ小· 中· 高等学校生活をする間、一つのスポーツに 10 年以上没頭することになることもありうる。 例えば 1949 年から県内にスケート場があった群馬県の場合、オリンピックに出場したスピードスケート選手のうち群馬県の小· 中· 高校でスケート部所属として活動した割合が圧倒的に多い。 このため、サークルが運動ノウハウを後代に伝授する場になったりもする。 大阪市の清風中高校は、これまで 15 人の

体操選手を五輪に送り出した「体操名門」だ。 先輩の中に五輪選手が出ると、学校を訪問して後輩と出会いの場を持ち、これを通じて後輩も刺激を受けて良い成績を出すことになるということだ。
早稲田大学の中澤敦教授は「米国など他の国はスポーツを学校外で学ぶのが一般的で、これは家庭経済状況に影響を受けやすい」とし「日本は入門が容易で、これが学校で学生を指導する方法ともつながり、『サークル文化』と呼べるほどになった」と読売に伝えた。

人口急減は変数･･･「野球チームを作る人もいない」

ただ、変数は少子化による人口減少だ。 産経新聞は「日本で今後も数多くのメダリストを輩出できるか楽観できない状況」とも報道した。
日本スポーツ庁が 2019 年 3 月に発表した統計によると、2048 年頃、中学校運動部所属の学生数は歴代最多だった 2009 年対比 36.7%減少すると展望された。 民間団体の笹川スポーツ財団も野球を週 1 回以上実施する 10 代人口は 2001 年 117 万人だったが、2021 年は 65 万人と半分になったことに憂慮を示した。 このような状況では野球、サッカーなど団体球技種目の場合、学校単位でチームを組むことさえ難しくなる。 すでに学校連合チームとして試合に出場する事例も増えている。
非人気種目の場合、打撃はさらに大きい。 日本中学校体育連盟は 1979 年から主催した全国中学校体育大会と関連し、2027 年以後、競技種目 19 種目のうち 9 種目を廃止する見通しだ。 廃止が決まった種目はクラブ活動で簡単に接することが難しいもので、相撲、スケート、アイスホッケー、ハンドボール、新体操などが代表的だ。 ハンドボールサークルが全国の中学校サークルで占める割合は、男子 7%、女子 6%に過ぎない。 これに対し日本ハンドボール連盟事務局長は「ただ一人のスーパースターでハンドボール界の地位は十分に変わる可能性がある」とマスコミに訴えた。
出典：https://v.daum.net/v/20240731160233130

07　中央日報　2024.08.05

寄りかかるなと言っていたのに金もう 10 個･･･ 体育会、無能だったり、面皮だったり

パリ五輪に参加している大韓民国国家代表選手団が 4 日基準で 10 個目の金メダルを獲得し、当初の予想成績を大きく上回った。 期待以上の成果に対して内外の賛辞が絶えない中で、大韓体育会の状況分析力量に疑問を示す声も共に出てきている。
韓国はパリ五輪で 4 日まで 10 個の金メダルを獲得し、勢いに乗っている。 金メダル 13 個で歴代最高成績を出した 2012 年ロンドン大会以後、12 年ぶりに金メダル 2 桁を再び記録した。 「伝統の孝行種目」アーチェリーが男女個人戦と団体戦、混成戦まで席巻し、5 つの金メダルを総なめした。 射撃でも女子ピストル 25 メートル（ヤン･ジイン）と女子エアピストル 10 メートル（オ･イェジン）、女子エアピストル 10 メートル（パン･ヒョジン）で計 3 個の金メダルが出た。 フェンシングはサーブル男子個人戦と団体戦を席巻した。 大会日程が半分を越えたばかりの状況であるだけに、金メダル数はさらに増える可能性がある。

専門家たちは「ロンドンで達成した歴代最多金メダル記録を越えることができなくても、歴代最多メダル新記録は有力だ」と口をそろえる。 5日午前現在、韓国選手団は計24個のメダル（金10、銀7、銅7）を獲得した。 1988年ソウル五輪当時記録した過去最多記録33個（金12·銀10·銅11）と9個差だ。アン·セヨンがバドミントン女子シングルス銀メダルを確保しただけに、他の種目で9個を加えれば新記録を立てることができる。 テコンドー（パク·テジュン）、近代五種（チョン·ウンテ）、ブレーキング（キム·ホンヨル）、射撃男子速射拳銃（ソン·ジョンホ、チョ·ヨンジェ）、陸上高跳び（ウ·サンヒョク）、水泳女子ダイビング（キム·スジ）、重量挙げ（パク·ヘジョン）、女子ゴルフなどで金メダルまで含めて良い成績が期待される。

当初の予想値をはるかに上回る韓国選手たちの活躍が続き、賛辞に劣らず残念な気持ちを表す声が一緒に出ている。 体育会が目標値を過度に低く提示したため、韓国選手たちがパリ五輪の開幕を控えて、まともに注目されなかったためだ。

実際、韓国代表チームが2000年代に入って、最も低調な成績に止まるだろうという体育会の見通しが出てから、五輪に対する内外の期待感が大きく落ちた。 先月27日のパリ五輪開幕式の視聴率は、生中継した地上波3社を合わせて3.0%に止まった。 3年前の東京大会の視聴率（17.2%）の5分の1にも及ばない。時差などを考慮しても、大会開幕直前の五輪に対する期待感が低かったのが原因だった可能性がある。 以後、韓国選手たちの相次ぐ善戦と共にオリンピック熱気に火がつき始め、視聴率は着実に増加傾向だ。 4日、キム·ウジンが出場したアーチェリー男子個人戦決勝の場合、視聴率1位に上がったMBC1ヶ所だけで18.3%(全国世帯基準)を記録した。

体育会の見通しが大きく外れたのは2つの方法で分析できる。 まず、選手一人一人と種目別の力量を評価するシステム自体が誤って設計された可能性がある。 スポーツ評論家のチェ·ドンホ氏は「当初の展望と比べて金メダル数が2～3個程度差が出ることはあるが、2倍以上に広がったのは問題がある」とし「韓国選手だけでなく他国選手の競争力分析もまともになされなかったということ」と批判した。

一方、体育会が他の意図を持って目標値を低く設定したという分析も出ている。 チェ·ドンホ評論家は「体育会は前大会の東京五輪から『エリート体育の危機』を云々し、韓国選手団の予想成績を低く抑えている。 だが、COVID-19パンデミックという特級変数があった東京を例外にすれば、大韓民国選手団は着実に国際競争力を維持している」とし「体育会がオリンピック展望を悲観的に提示しエリート体育予算拡充のための人質として使おうとしているという疑いを拭えない」と主張した。

これについて李ギフン大韓体育会長は2日、「パリ五輪の成績予測システムには問題がない」とし、「昨年、海兵隊の訓練などを通じて、さまざまな種目の選手と指導者の間で絆が深まり、『ワンチームコリア』文化が生まれたことが期待以上の良い成果につながった」と主張した。

原因がどちらであれ「目標設定エラー」に対して体育会が責任感を感じるべきだという声が高い。 パリオリンピックに対する期待値が低くなり放送会社と企業など「オリンピック特需」を期待した色々な分野で有·無形の被害が発生したためだ。 放送界関係者は「ただでさえ人気種目である男子サッカーと女子バレーボールなどが脱落した状況で本選展望まで暗く出てきて大会前広報と広告誘致に苦労した」とし「分析が誤ったことならば無能であり、わざと目標値を過度に下げたことならば故意的な面皮だ。 双方とも批判を受けて当然の状況だ」と声を高めた。

出典：https://www.joongang.co.kr/article/25268526

08　JTBC　2024.08.05

22 歳なのに･･･アン･セヨン突然代表引退宣言、その理由は？

2024 年パリオリンピックのバドミントン女子シングルスで金メダルを獲得したアン･セヨン選手が代表チームを離れると宣言しました。

アン･セヨンは今日（5 日）の試合直後、記者団と会った席で「私はこの瞬間を最後に代表チームとはずっと行くのは難しいのではないかという気がする」と明らかにしました。 代表チームの引退を意味するのかという質問には「はい」と答えた後、「うまく話をしてみなければならないが、多くの失望をした」と付け加えました。

引退の理由については自分の負傷に対する代表チームの態度に言及しました。 アン･セヨンは「私の負傷は思ったより深刻で、これをあまりにも安易に考えた私たちの代表チームに少しがっかりした」と言いました。

それと共に「私の夢を叶えてくれるためにトレーナーの先生があまりにも顔色を伺って、とても大変な瞬間を送り続けたようで、その申し訳ない気持ちも多い」と言及しました。

今年 22 歳のアン･セヨンは中学 3 年生の 2017 年に初めて太極マークをつけました。 アン･セヨンの突然の引退示唆発言は、代表選手の負傷管理をはじめとするバドミントン代表チームの運営に対する問題提起と受け止められています。

出典：https://n.news.naver.com/article/437/0000404855?lfrom=kakao

09　ニューシス　224.08.04

ユスピの疾走は最下位でゴールした後に始まった

カミア·ユスピ（28）は2024年パリ五輪に出場したアフガニスタン唯一の女性選手だ。 彼女はアフガニスタンの女性が直面している現実を知らせるため、難民代表チームではなくアフガニスタン国家代表として出場した。

ユスピは2日（韓国時間）、フランス·パリ郊外のスタッド·ド·フランスで行われた大会陸上女子100メートル予選で13秒42の記録で3組最下位の9位となった。

彼女の本当の疾走はゴールを通過した後に始まった。

試合直後、ユ·スピは自分がつけていたナンバープレートを取った。 そして、裏面を持ち上げて見せた。

二つの単語が自筆で書かれていた。 「教育」そして「私たちの権利」だった。

米AP通信は2日、「ユスピの話は五輪の旅程が常に勝ち負けにあるわけではないということを示す勇気ある例」と報道した。

出典：https://www.newsis.com/view/NISX20240803_0002836816

10　BBCコリア　224.08.01

五輪選手16人のうち12人が女性･･･
北朝鮮、なぜ「女性パワー」が注目されるのか？

世界各国の選手たちが数年間のハードトレーニングの輝かしい成果を披露するオリンピック。 特に2024年パリ五輪は、完全な男女平等を前面に掲げ、男女出場選手の性比を50対50に近づけた。

しかし、出場選手の性比に注目した時、特に目立つチームがある。 8年ぶりに夏季五輪に参加する北朝鮮選手団だ。 出場選手は計16人。 そのうち12人が女性だ。

先月31日、北朝鮮のキム·ミレ、チョ·ジンミ選手がダイビング女子シンクロ10メートルで銀メダルを獲得した。 北朝鮮がダイビングでメダルを取ったのは今回が初めてだ。 これに先立ち、キム·クムヨン、リ·ジョンシク選手も卓球混成ダブルスで銀メダルを獲得した。

今回の北朝鮮選手団には、北朝鮮官営メディアが今年初めに発表した「2023年10代最優秀選手」にも名前を載せた人が多い。 同様に、リストに載った10人のうち8人が女性だ。

もちろん主要国に比べて全体の参加人数は多くないが、最近になって国際スポーツ舞台で北朝鮮の女性選手の活躍が目立つ。

「体育強国建設」

北朝鮮専門家らは、歴代の北朝鮮指導者らが男女を問わず「すべての人民」を対象に体育の重要性を強調してきたと話す。

北朝鮮の学者、李ナヨン氏はBBCコリアに「社会主義体育が目指すところが労働と国防に貢献できる丈夫な身体を持った『社会主義的人間』を養成することなので、北朝鮮だけでなく旧ソ連や中国も皆このような基調で体育政策を設計してきた」と説明した。

ソウルで北朝鮮学専門書店を運営する李さんは、「北朝鮮の女性体育談論」を研究した論文で博士号を取得した。

彼は特に北朝鮮が 1960～70 年代からエリート体育人養成に本格的に乗り出したと見た。 当時、五輪は「体制競争の代理戦」が行われるところであり、女性選手の活躍は「社会主義圏の女性たちは平等ですでに解放を成し遂げた」ということを示すのに最適だったという説明だ。
北朝鮮は 1972 年の五輪に初めて参加した。 ミュンヘンで金メダル 1 個、銀メダル 1 個、銅メダル 3 個を獲得し、銀メダル 1 個だけを獲得した韓国を圧倒した。
2000 年代に脱北した元ボクシング国家代表のキム· サンユン南北スポーツ文化研究院理事長は「私が北朝鮮で運動をしていた 90 年代にも学校ごとに女性と男性の特徴を分離して幼少年スポーツ人材を養成するシステムがよく構築されていた」とし「(最高の)運動学校では普通小学校や中学校の時から人材を選抜して教育をさせた」と回想した。
2011 年末、父親の権力を継承した北朝鮮の金正恩国務委員長も政権初期から「体育強国建設」を主要課題として強調してきた。 彼自身も「スポーツ愛好家」として知られている。
政権発足直後、体育政策および事業総括のために発足した国家体育指導委員会は、これまでも核心幹部の参加で活発に作動しているという。 2015 年には「体育テレビ放送」を新設し、週末ごとにスポーツ競技を放送した。
北朝鮮大学大学院の李ウヨン教授は「金正恩氏は政権初期から非常に制限的な水準であっても（北朝鮮の）正常な国家化を志向し、そのような努力をする過程で少し自信があると考える体育の方に関心が高まったと見られる。 ここに個人的な趣向まで結びついた」と説明した。

「女性パワー」の秘訣は
では、最近の北朝鮮の女性選手の活躍に特別な秘訣があるのだろうか？
専門家らは、北朝鮮の女性選手に明確な競争優位があるとは言い難いとしながらも、北朝鮮の男性選手に比べて相対的に国際舞台での競争力があると見ている。
北朝鮮の体育分野などを研究するホ· ジョンピル東国大学北朝鮮学研究所教授は、「北朝鮮の女性に比べて、男性選手の身体的条件が国際舞台で活躍するには相対的に多少不利だ」と分析した。
ホ教授は「北朝鮮男子スポーツ選手たちの最も大きな短所が矮小な身体」とし「西欧圏選手たちの体格に追いつくためには肉中心の献立でたくさん食べるなど複合的な管理が必要だが、大部分そうではない状況」と説明した。
結局、「体育強国建設」を宣言した北朝鮮指導者の立場で、制限された財源を相対的に成績がより良い女性スポーツにより関心を持って投資するしかないということだ。
元ボクサーの北韓離脱住民のハン· ソルソンさんは、北朝鮮で女性スポーツ人材を特に後援しているとは感じなかったとしながらも、「性差別的発言に聞こえるかもしれないので慎重だが、北朝鮮で選手同士で交わした会話がある」とした。
″どうしても″ヨーロッパなどの男性は体質的に優秀な上にスポーツの歴史も深いので、(北朝鮮の)男性はいくら頑張っても壁を乗り越えにくい″ということでした。 一方、女性の場合、国際的にスポーツの歴史がそれほど長くなく‥‥‥また北朝鮮の女性が強いんですよ。 それで、不人気種目では掘り下げることができる空間がある、こういう話をしましたね。”
現在、30 代前半のハンさんは、10 年代半ばに脱北する前まで、北朝鮮で約 7 年間、プロボクシング選手として活動した。 有名選手を多数輩出した名門 4· 25 体育団に所属して活動した経歴もある。

ハンさんの言葉通り、北朝鮮の女性選手が活躍する分野はボクシング、レスリング、重量挙げ、陸上など、種目がやや制限的だ。
北朝鮮で「体育英雄」扱いされる女性選手としては、1960年代にロシア·モスクワで開かれた国際陸上大会で世界新記録を立てて優勝したシン·クムダン選手、1996アトランタ五輪で当時日本柔道最強者の田村亮子を破って金メダルを獲得したケ·スンヒ選手、1999年にスペイン·セビリアで開かれた第7回世界陸上選手権大会女子マラソン優勝者のチョン·ソンオク選手などがいる。
女性の地位向上？
もう一つ注目すべき点は、金正恩第1書記が体育を奨励するとともに、家庭と社会で女性の役割を強調してきたということだ。 金正恩政権後、女性政策全般が変化したということだ。
金正恩氏は政権獲得後、「世界女性の日」の3月8日を「国際婦女節」に、11月16日を「母の日」祝日に指定して記念し、女性の社会進出を促す姿を対外的に見せている。 娘の金ジュエ、妹の金ヨジョン、崔ソンヒ外相など、公式の場で女性の存在感も大きくなった。
実際、国策研究機関の統一研究院は昨年末に発表した「2023北朝鮮人権白書」を通じて、金正恩体制で女性の社会進出が増え、家庭内の発言権が強くなったという証言も出ていると言及した。 だが、その一方で「固定された性役割と差別意識は住民に残存すると調査される」とし、「特に都市より農村で性差別意識と家庭内暴力に対する認識が遅れた」と指摘した。
李教授は「北朝鮮は家父長的な社会ではあるが、就職とか就学とかその他の活動に対して制度的に（女性の）差別があるわけではない」とし「それで女性体育が萎縮したことがなかった」と話した。
許教授は、金第1書記が女性を強調する背景には、正常国家に見えるための試みとともに、若い世代を狙った思想再教育の目的があると見た。
「現在、北朝鮮で10代後半~20代前半の若者、私たちがよく言うMZ世代は、両親がほとんど市場で経済活動を経験した世代です。 この世代は両親の経験を自然に見て学びながら、北朝鮮社会主義がユートピアではないということに気づいたのです。”
1990年代半ば、苦難の行軍時期を経て、多くの女性たちが夫に代わって経済活動のために市場に出てきて、この過程で社会主義配給制に対する信頼がかなり落ちたという説明だ。 結局、チャンマダン（訳注：民営市場）世代の女性は体制説得対象であり、子供たちにこれを教育させなければならない主体であるわけだ。
しかし、このような傾向が北朝鮮での真の女性の地位向上を意味すると見るには難しいという指摘が出ている。 むしろ女性に過重な責任を負わせるということだ。
イ·ナヨン博士は「北朝鮮の女性たちは党のための人民にならなければならず、労働に貢献もしなければならず、出産·育児もしなければならず、今は反社会主義的な基調を防げるように子供の教育ももっと熱心にしなければならないし……過度な責任が女性たちに与えられたため、彼女らが（出産を）忌避する傾向まで現れている」と話した。
女性体育の場合も、訓練過程での暴力問題や訓練インフラ拡充などの問題点が指摘される。
ハンさんは「北朝鮮は女性の人権だけでなく、すべてが劣悪ではあるが、その中でも女性の人権はこれ以上保障されない」とし「(北朝鮮の体育界で）暴行や醜行などが頻繁に起きると言える」と話した。
キム理事長は「男性が（参加）する北朝鮮内の大会·試合は非常に多様で多いが、女性はチームや人口が少し限られているため、男性に比べては大会·試合がそれほど多くない」と話した。

それと共に「今、アジア大会やオリンピックで出てくる女性選手たちより北朝鮮にはさらに優越な技量を持った選手たちが潜在している」とし「ただオリンピックに出られない色々な多様な理由があって参加できずにいる」と話した。
ただ、ハンさんは国際舞台に出場した北朝鮮選手たちを同情心や反感を持って眺めるよりは、他の選手たちと同じように「体育人」と見てほしいと頼んだ。
「ただ（北朝鮮の選手たちが）まずは理念を離れてオリンピックに来た人たちなので、応援してくれたら嬉しいです･･･彼らがこれまで一生懸命準備してきたこと、思う存分繰り広げることができる舞台になってほしいという願いです」
出典：https://www.bbc.com/korean/articles/c84jzv9el0no?xtor=AL-73-%5Bpartner%5D-%5Bnaver%5D-%5Bheadline%5D-%5Bkorean%5D-%5Bbizdev%5D-%5Bisapi%5D

11　週間スポーツニュース

忠清北道堤川市、スポーツ施設としての都市基盤整備へ
https://www.segye.com/newsView/20240805509650?OutUrl=naver

アン･セヨン、大韓体育会公式記者会見に欠席
https://www.yonhapnewstv.co.kr/news/MYH20240806001000641?input=1825m

仁川教育庁、オーストラリアのシドニーで「学校体育活性化方案」を模索
https://www.pressian.com/pages/articles/2024080514235019636?utm_source=naver&utm_medium=search#google_vignette

報恩国民体育センター住民の体力増進のための空間として位置づけられる
https://www.daejonilbo.com/news/articleView.html?idxno=2147667

忠南大学病院、非対面障害者リハビリ体育プログラムを実施
https://news.tf.co.kr/read/national/2122243.htm

楊州市、体育施設児童虐待申告義務者教育点検
https://news.kbs.co.kr/news/pc/view/view.do?ncd=8028584&ref=A

「学校体育の正常化こそ韓国スポーツの発展」
https://www.seoul.co.kr/news/peoples/2024/08/06/20240806021002?wlog_tag3=naver

咸安郡ドリームスタート、学齢期の児童を対象に体育活動を実施
https://www.dnews.co.kr/uhtml/view.jsp?idxno=202408051307400620692

「アジア初の国際賞であるスポーツ大会を誘致する」
https://www.mk.co.kr/news/politics/11084624

体育市民連帯オンライン　定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。
私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行　086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

体育市民連帯　ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号
Tel：02-2279-8999、E-mail：sports-cm@hanmail.net　ホームページ：　http://www.sportscm.org/
日本語訳：佐藤好行　新日本スポーツ連盟　国際活動局　韓国担当　jr1fep@gmail.com
週刊ニュースレターバックナンバー（資料室）　http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html